



点字で心の目を学ぶ

8月3日、村自然休養村管理センターで村内外の小中学生ら約20人が参加して「点字スクールIN普代」が村社会福祉協議会（佐藤勲会長）主催で開催されました。同協議会は、点字の学習を通して、晴眼者（はっきり見える方）と視覚障害者の相互理解の機運を高めてもらうことを狙いとしています。

点字スクールIN普代では、盛岡市の県立点字図書館の職員、横沢忠館長補佐と佐賀善司校正員を招いて指導いただきました（写真）。

参加者の一人、上区の岩澤捺妃さん（普代小6年）は「点字は今回初めて勉強しましたが、点字がなんとなくわかりました。参加してよかったです」と笑顔で話してくれました。



第二十六回イーハトーブトライアル大会が八月二十四、二十五日の両日行われました。この大会は、北緯四〇度線を通る県北十二市町村の山野をバイクで走破するものです。

『今年もやって来た』 イーハトーブトライアル大会

同大会四部門に全国から約五百人が参加し、その中の「クラシック」部門は百五十人のライダーが安代町田代平の七時雨を出発点に普代村を折り返し、二日間で三百五十キロ、五十セクションを走破する同大会メインのレースです。今年も成田亮さん（二七）と渋谷勲さん（一八）の二人が、普代浜で華麗なテクニクを披露しました。その神業に村民や参加者からは驚愕の声が漏れていました。

村（深渡宏村長）では、国民宿舎くろさき荘に宿泊していた参加者たちを歓迎し、普代中学校神楽同好会（寺林拓也校長・生徒百二十一人）八人（同メンバー・十八人）による神楽、中野流鶴鳥七頭舞を披露（写真）。激しくて華麗な舞は大喝采を浴びていました。



八月六日、太平洋戦争から五十七年目の夏。今年も村戦没者追悼式が英霊塔の前で行われました。式には遺族ら約百人が出席し、不戦と平和の誓いを新たにしました。村遺族会の森子廣榮会長が「尊い命の犠牲の上に今の繁栄があります。戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぎ、豊かな郷土の実現に努力します」と追悼の言葉を述べました。引き続き、参列者全員が参拝し、犠牲者百人のめい福を祈りました（写真）。

